

# 福祉サービス第三者評価結果

事業所名 : 藤沢市立 浜見保育園

発効 : 平成 28 年 3 月 1 日 (平成 31 年 2 月 28 日まで有効)

福祉サービス第三者評価機関

株式会社 ケアシステムズ

## 1 事業所基本事項

フリガナ	ふじさわしりつ はまみほいくえん
事業所名 (正式名称を記載)	藤沢市立浜見保育園
事業所住所 最寄駅	〒251-0037 神奈川県藤沢市鵜沼海岸4-17-6 小田急線 鵜沼海岸駅下車 徒歩15分
事業所電話番号	0466-34-4545
事業所FAX番号	0466-34-4539
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 仲村 由子
法人名及び 法人代表者名	法人名 藤沢市 法人代表者氏名 藤沢市長 鈴木恒夫
URL	<a href="http://city.fujisawa.kanagawa.jp/">http://city.fujisawa.kanagawa.jp/</a>
問合せ対応時間	8:30~17:00

### 事業所の概要1

開設年月日	昭和47年5月1日
定員数	120名
都市計画法上の用途地域	
建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
面積	敷地面積 ( 1319 ) m <sup>2</sup> 延床面積 ( 629 ) m <sup>2</sup>

### 事業所の概要2 (職員の概要)

総職員数	33名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長 ( 1名) 保育士 ( 26名) 保健師・看護師 (3名 藤沢市保育課配属 ) 栄養士 (2名 藤沢市保育課配属 ) その他 (調理員 4名)(用務員 1名)

### 事業所の概要3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後 6ヶ月～小学校就学未満	
延長保育の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	備考:
休日保育の実施	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考:
一時保育の実施	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考:
障害児保育の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	備考:
病後児保育の実施	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	備考:

### 保育の方針

- ・ 子ども達一人一人の安定した生活や充実した活動を心がけ、年齢や発達に応じた支援を実施する。又保護者と子どもの成長を共感する等連携を図るなかで信頼関係を築いていく
- ・ 職員は資質の向上に努め、日々振り返りや考察をする中で課題を持ち行動する

## 1. 総合コメント

### 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

#### <施設概要>

浜見保育園は、小田急線鵜沼海岸駅より徒歩約15分くらいの場所に立地しており、周辺は湘南海岸や引地川、静かな住宅地に囲まれ、近隣には子ども向けの施設や緑豊かな公園や遊歩道など、自然に恵まれた環境になっている。昭和47年5月1日に開設した園であり、現在は0歳から5歳児までの未就学児120名を定員としている。

保育目標を「豊かなこころ・丈夫なからだ」とし、子ども一人ひとりの安定した生活と充実した活動を目指し、健やかな心身の発達を育む保育に努めている。また、異年齢との関わりや地域の方々のふれ合いの中で、自己肯定感や思いやりなど心の育ちを大切にする保育に取り組んでいる。

#### <優れている点>

##### 1. 子どもの言葉にならない気持ちをくみ取ることに注力している

子どもと1対1で目を見て話しかける「応答的な関わり」に対応してあげることが大切にしており、言葉にならない気持ちをくみ取り代弁してあげることが大切だとして子どもとの関わりを捉えている。0歳児のまだ言葉にならない話しかけや指差しなどに、丁寧に応対してあげることで発語につながるだけでなく、その対応が子どもと担当の保育士との信頼関係を築き、安心して自分の気持ちを言葉にできるようになるとしている。信頼関係の中で自分の気持ちを伝えることを経験することで、のびのびと自己発揮できる子どもへと成長させる機会となっている。

##### 2. 運動遊びを多く取り入れ、自分の身体をコントロールできる力をつけることを目指している

運動遊びを多く取り入れて、自分の身体を自分でコントロールできる力を身につけられることに力を入れている。0歳児からリズム遊びを取り入れたり、巧技台を使って、「くぐる」、「身をかがめる」という通常はあまり使わない動作を取り入れることで、自分の身体をコントロールができる子どもへの環境提供をしている。また、園庭やホールでの活動に加え、近隣のアスレチック(ひよこり鵜沼南島)を活用する機会も設けている。園外施設を使用することで、地域の方との触れ合いや、その施設を利用するにあたり、守らなければならないルールを学び、頑張る友だちを応援する姿などもみられている。

#### <独自に工夫している点>

##### 1. 地域の方々の世代間交流がいろいろな形で行われている

・園では「にこにこの日」として年6回地域の高齢者や民生委員との交流、老人福祉センター「なぎさ荘」への訪問、障がい児施設「太陽の家」との交流、辻堂小学校のフェスティバルへの参加、中高生の職場体験、高校生の吹奏楽部によるクリスマス演奏会など、地域の方々の交流の機会を豊富に設けている。地域の方々の交流の機会を持つことは、子どもの社会性や情操を育てる側面のみならず、その地域で育つ子ども個人と地域の方々が顔なじみになることで、地域で子どもを見守る防犯への取り組みとなっている点でも評価することができる。

#### <改善すべき事項>

##### 1. 分かりやすい評価と反省が期待される

・新年度を迎える際には、職員会議において重点目標を記載した書式（職員の皆様へ）はじめ、園目標、役割分担表、行事分担表、職員配置などを説明や配布を行い、年間を通じて円滑な園運営ができるようにしている。同様に、年齢（クラス）ごとの評価や反省をもとに新たな年度の園目標を設定する流れとしている。ただし、前年度の評価や反省内容については、分かりやすく表現すること

が望まれる。また、次年度目標に適切に反映されているか否かをチェックすることも必要とされる。評価や反省という言葉が形骸化していないかを経営層は検証することで、職員の育成につながることを再認識されたい。

### 評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<p>①保育所保育指針や藤沢市保育課程をもとに「浜見保育園規則」を設け、職員の行動・倫理規範などを明示している。規則には「職員の規律・規範」、「保育士倫理綱領」、「保育士の心構え」などを盛り込み、また配布することで職員が常に確認できるようにしている。新年度を向かえるにあたっての職員会議では、園長講話の中で法・規範・倫理などに触れ、理解を深めてもらえるようにしている。さらに、日常の具体的な事例への対応方法を話し合っていく中で、行動につなげることを心がけている。</p> <p>②子ども一人ひとりの尊厳の尊重や羞恥心に配慮した保育に取り組んでおり、トイレ使用、衣服着脱、その他の状況に応じて個別に対応できるように配慮している。トイレは、ドアの必要な子ども、ドアがあることで不安になる子どもに合わせたドアの設置がなされている。夏季のプール遊びの際には園舎外から見えないように覆うなどの工夫をして視線を遮るようにしている。子どもの気持ちを傷つけるような言動などについては会議において遵守を指導している。</p> <p>③指導計画には子ども一人ひとりに配慮すべき事項を盛り込み、人権尊重を含めて評価反省に努め、子どもの状況や関わり方については職員間で共有できるようにしている。家庭の諸事情についても職員間で共有し、統一した支援が提供できるようにしている。また、外国人家庭などの文化、風習、食生活の違い、宗教、思想信条による考え方の違いを考慮した上で、個別に保護者と話し合い、可能な限りの配慮に取り組んでいる。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>①入園説明会や保護者懇談会などを通じて苦情解決制度をはじめ、受け付け担当者や解決責任者などを説明したり、園内には意見箱を設置して、苦情や要望を受け付ける仕組みを整えている。苦情を受け付けた際には、担任と園長・主任で協議し解決に向けての迅速な対応に取り組んでいる。また、オンブズマン制度を取り入れており、園内には外部の相談窓口も明示している。さらに、「保育園のしおり」など保護者が保管する媒体にも、「苦情解決制度」や「個人情報に関する取り扱いの詳しい説明」などを明示し、理解を深めてもらえるようにすることが必要とされる。</p> <p>②登園やお迎え時にはできる限り保護者と会話するように努め、コミュニケーションを図るとともに、連絡帳、行事開催後のアンケートによって、意向や要望を把握することに取り組んでいる。集約した意見は、職員に回覧した上で改善が必要な点は適宜検討が行われている。さらに、保護者へのフィードバックについても、内容によって懇談会での説明や園便りで報告することも必要とされる。</p> <p>③問題が発生したときには担任から園長・主任に報告し、さらに全体周</p>

		<p>知をする仕組みになっており、早期対応・早期解決につなげている。園内外の各種の事例は、職員会議や打ち合わせ会議などで話し合い、全職員へ問題提起することになっている。また、今回行った保護者アンケートの「職員間の情報共有」については、大変高い満足度が聞かれている。ただし、自由意見欄には、保護者懇談会などのフォーマルな場での質疑応答などの時間を設け、園と保護者の関係をより密にすることを望んでいる声も聞かれている。</p>
<p>3</p>	<p>サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>①藤沢市では児童福祉に関する中・長期計画を策定しており、それに基づいて保育課程を作成し理念やビジョンの達成に取り組んでいる。また市内の各公設保育園では、これらの計画を基に年間指導計画や年間行事スケジュールを策定し、「保育」を軸に「次世代育成」「環境整備」「地域交流」などを盛り込み、現場の実情に沿った個別の事業計画に落とし込んでいる。市の中長期計画（保育課程）と園の年間指導計画の整合性を図ることで、より多面的多角的な運営推進に取り組んでいる。</p> <p>②年間指導計画は、園の保育理念・保育目標・保育課程を踏まえ、全職員が共通に理解できるように作成している。計画内容は、各項目とも具体的な項目が記述されており、前年度の反省をもとに各職員が計画作成に関わっていることがうかがえる。計画の進捗は、保育打合せや職員打合せにおいて毎月行われ、課題が明確になるようにしている。また、期毎に実践結果をまとめ検討事項を確認し、必要に応じて修正している。</p> <p>③園内セキュリティ対策として、防犯カメラ・インターホンを設置し、法令基準に沿って設備の安全点検を実施している。また、危機管理では、園全体で再度安全に対するの確認を行う仕組みを整備している。ヒヤリハットの報告についても、手順に沿って保護者に最終的に伝えた過程を記録として残し、事後確認を行えるように改善している。さらに、園庭や駐車場など広々とした環境であることを踏まえ、新たなリスクや危険箇所などについて適宜検証することになっている。</p>
<p>4</p>	<p>地域との交流・連携</p>	<p>①園長会や地域ネットワークから子育てニーズを収集するほか、地域の子育て支援として「園庭開放」や「体験保育」を実施している。「はまっこの日」の名称による体験保育は、地域において親子に年3回約1時間体験してもらい、園庭開放と同時に育児相談も受けられるようにしている。1回各乳児組3組としており、市の子育て企画課においても情報を提供し、0歳児を中心に参加者が多いことが報告されている。また、地域の公民館において保育士が子育て相談や遊びの紹介に応じる機会も年2回設けて、園の専門性を地域に還元することに取り組んでいる。</p> <p>②できる限り見学希望者の要望に応じるようにしており、園の特色や方針、保育目標や保育内容を園長、主任によって丁寧に伝えている。園外保育などの機会を通じて地域の親子に「はまっこの日」などを伝え、地域への情報提供に取り組んでいる。事務室はオープンに心がけ、いつでも保護者との相談に応じられるようにしている。玄関エントランスには、感染症状況が掲示されて保護者の安心につなげている。地域の子育て支援事業については、年度末に評価、見直しの機会を設け次年度の開催につなげている。「はまっこの日」については実施日数や、参加者の年齢などについて現在検討している。</p>

		<p>③地域にある敬老施設の盆踊りに参加したり、敬老会では歌や遊戯を披露したりして、地域の人々と交流が図れるような機会を設けている。また、地域の中学校の合唱部や高校の吹奏楽部が園においてクリスマスの演奏会を開催している。さらに、地域の障がい者施設の子どもたちに遊びに来てもらい交流を図れるようにしている。また、幼・保、小の連携を図るために、学校公開、入学式、卒業式などに参加し、年長児への啓発活動にも取り組んでいる。</p>
<p>5</p>	<p><b>運営上の透明性の確保と継続性</b></p>	<p>①玄関の掲示板には、地域のお知らせや催し物のパンフレットなどを掲示し、各種の社会資源が活用できるような情報提供に取り組んでいる。病後時保育や一時保育など、行政や地域での子育て支援に関係する資料を用意しており、保護者をはじめ訪問者はいつでも自由に手にすることができるようにしている。「園庭開放」、「育児相談」「体験保育」などを実施している。参加者からの聞き取りなどを通じて、次の開催への要望なども把握し地域の子育て支援に取り組んでいる。</p> <p>②保護者懇談会、保育参加、個人面談などを通じて保護者の意見を保育の中で反映させるようにしている。運動会、発表会などの行事ごとに感想文やアンケートを実施しているほか、意見箱を設置しており、保護者の意見を自由に投函できるようにしている。子育てに関するパンフレットは園の玄関に設置してあり、いつでも自由に持ち帰ることができるほか、保護者に配布して情報提供に努めている。保育に関する保護者の意向は、担任や園長・主任でいつでも受け入れる体制を整えている。</p> <p>③園では日常から保護者との信頼関係を大切にしており、乳児クラスでは連絡帳の活用や職員が積極的にコミュニケーションを図ることを心がけている。また、幼児クラスでは1日の保育の概要を日々掲示して保護者に伝え、保護者からの相談には丁寧な対応に努めている。また、毎日の送迎時には保護者の気持ちを吸い上げられるように、職員から積極的に声かけすることも心がけている。さらに、要望に対応できない場合や意見の相違が生じた場合は、理由を説明し理解が得られるようにすることを目指している。</p> <p>④随時開催している職員打合せや定例の職員会議を通じて、重要な案件を検討し周知を図っている。会議録はいつでも閲覧できるようになっており、欠席者にも適宜伝わるようにしている。また、市内公立園の園長会・主任会などの報告は、全職員に伝達されるように回覧書類にはチェック欄を設けている。保護者には、懇談会での説明や園便りの配布、各クラスの入口のお知らせボードを活用する手法で、その都度重要な案件の周知を図っている。</p>
<p>6</p>	<p><b>職員の資質向上促進</b></p>	<p>①職員の採用は常勤が市、短時間勤務職員（パート）は園で担当しており、各人の経験・特性や本人の要望を踏まえて園において人員配置を行っている。職員は年度初めに「職務の自己目標」を作成し、園長や主任との面談によって目標や計画を確認し合い、半期に一度達成状況を確認し評価を受ける仕組みになっている。また、人材育成については、担当業務・経験年数をもとに年間の研修実施計画から勤務調整のもと、適宜参加できるようになっている。</p> <p>②本年度は第三者評価の受審を踏まえ、園内研修の一環として保育課程</p>

	<p>分野ごとの「まとめや総括」に取り組み、若手職員に指導しながら自らを振り返る機会を設けている。また、市・園内・自己研鑽などの研修参加後には主任ルートで園長宛に報告書が提出され、職員会議などでの発表により成果を確認したり、報告書の回覧によって共有化が図られている。受講実績は「個人受講記録簿」に記載され、職員個人の受講歴が確認できるようになっている。また、目標設定シートや自己評価は市にも報告され、育成状況の確認のもと異動や昇格につなげている。</p> <p>③保育理念・保育目標を達成させるために、職員一人ひとりの特性を活かし、園全体として保育・教育力を向上させることを目指している。その一環として、園長と職員との直接対話を中心とした諸課題への取り組みが行われている。園長・主任は常に職員の状況を互いに伝え合い情報を共有しているが、自分からなかなか意見を言いにくいタイプの職員には特に意識して声をかける必要があることを認識している。常勤・非常勤など分け隔てなく話す機会を設け、全職員との意思疎通を図っていくことを目指している。</p>
--	---

## 2. 自己評価の結果

### 大項目1 保育環境の整備

評価項目に添って、自己評価を行った結果です

<b>大項目1全体（調査確認事項全81事項）を通してのサービスの達成状況</b>	<b>100%</b>
--	-------------

#### 大項目1の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示

		見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

## 大項目 2 保育内容の充実

評価項目ごとに、事業所の取り組みを記載して下さい

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか	<p>① 個々の子どもの成長を家庭及び職員間で共有出来るように家庭との連絡を密に取り合ったり、職員間の連携を大切にしている。 子どもの状況において全体に周知が必要な内容があるときには、職員間で情報を共有し対応の立て直しや改善に努めている。</p> <p>② 乳児クラスでは、少人数グループの保育で特定の大人が日々関わることで心の安定をはかっている。また、幼児クラスでは設定保育以外で、子どもたちが落ち着いて遊べるコーナーや希望する遊びの場を整え、自分から意欲的に遊びに取り組みもうとしたり、人と関わる経験や、ルールを守って活動する心地よさを味わえるようにしている。</p> <p>③ 年齢及び個々の発達に応じた運動遊びを取り入れ、四肢を意識して動かす遊びを通して保育士や友だちと楽しみながら、発育や発達を促せるようにしている。又、感触遊びや自然に触れて感性を育むことを大切にしている。保育士は子どもの頑張りを認め、意欲へとつなげている。</p>	<p>① 園では各クラス前には月ごとの保育目標や取り組みの掲示を行うことにしており、保育内容を「見える化」することで保護者の理解を深めてもらえるようにしている。また、日々の子どもの様子については、動向表などで詳しく申し送り職員間で共有できるようにしている。園では子どもの情報を共有することについて注力しており、乳児会議、幼児会議、主査会議、職員会議などの会議などを定期的開催して取り組んでいるが、パート職員については充分なされていないことを課題としている。 安全面や保護者対応などについては、「情報共有ノート」に残し、標準化した対応がなされるようにしており、職員の気付きを全職員で共有できるようにする試みは評価できるが、安全面に関してはヒヤリハットの混在がみうけられるため記入方法の改善が必要とされる。</p> <p>② 乳児クラスでは担当制を導入しており、少人数のグループ保育を行うことによって丁寧で細やかに対応ができる環境作りに取り組んでいる。幼児組クラスでは、子どもの発達に合った玩具などを配置し、子どもの希望を聞き子どもが好きな遊びで遊べる居場所感を大切にしている。また、遊びに集中しにくい子どもに対しては、保育士が個別対応することで要望を引き出すことに努め、日々の積み重ねで自分の思いを言葉に出せるようになることを目指している。 長時間保育の子どもに対しては、子どもの年齢に即した玩具はもとより、子どもの要望に合った遊びをコーナーに作り、落ち着いて遊べる環境作りがなされている。</p> <p>③ 運動遊びを多く取り入れて、自分の身体を自分でコントロールできる力を身につけられるようにしている。身体を動かせる子どもになってほしいという願いから園庭や保育室での活動に加え、近隣のアスレチック(ひよこり鶴南島)を活用する機会も設けている。園外施設を使用することで、地域の方との触れ合いや、その施設を</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		<p>利用するにあたり守らなければならないルールを学び、頑張る友だちを応援する姿などもみられる環境を整えている。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを心がけるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① ありのままの姿を丸ごと受け止め、抱きしめられたり子どもの気持ちに寄り添うなどして子どもが愛情を感じながら安心して穏やかに過ごせるようにしている。ひとりひとりの思いに応えられるような個性を大切に肯定的な言葉をかけ、ほめられることや認めてもらえるような言葉がけの対応で、大切にされている実感が持てるようにしている。保護者にも「お子さんの良い所を見つけ」と我が子の可愛い所を書いてもらう掲示板を設置し、記入して頂くことで、愛情の再確認の場を持つことをしている。</p> <p>② 色々な友だちや様々な人とふれ合いながら、人はかけがえのない存在であることに気づいたり一緒に遊ぶ積み重ねから、親しみを感じて互いに認め合ったり助け合う経験をしている。異年齢交流や特別支援児、他の施設との集団交流等を通じて、相手をいたわったり手助けしたり、気持ちを汲もうとする経験を大切にしている。</p> <p>③ 生活や遊びを通して、自分とは違う思いや気持ちがあることに気づけるように仲立ちとなり、お互いに納得出来るように根気よく関わっている。</p>	<p>① 少人数グループ保育によって保育士との信頼関係が築かれ、子どもたちは安心して遊び込めるようになることを目指している。1歳になると自分の好きな遊びが見えてくるようになることから、子どもの遊びを保証してあげることに注力している。保育士とのやりとりを楽しむことも大切にしていることから、クラス内での保育士同志の連携にも配慮している。また、保護者にも自分の子どもの良いところに気付いてほしいとして「わが子自慢」の掲示をしている。日々の生活の中で自分の子どもの良いところに気付いた時に記入して掲示してもらう企画としている。少しずつ参加者は増えてきているとのことで、掲示を読んで保護者間のコミュニケーションが増幅することを目指している。</p> <p>② 調理室の職員とは食育活動を通して子どもたちとの関わっており、喫食時の巡回、クッキング保育、野菜の栽培、収穫した野菜の調理などの豊富な機会がある。 縦割保育での交流、毎週土曜日の合同保育などを通じて、年長児は小さい子を気にかけて優しく接する姿を見せたり、小さい子は年長児の真似をして頑張る姿を見せており、異年齢児の交流による学びを提供する良い機会となっている。 年6回「にこにこの日」として、地域の高齢者や民生委員と世代間の交流を図る機会を設けている。さらに、近隣の障がい児施設「太陽の家」とは定期的に交流する機会を設けており、子どもたちは感じるままに自然に交流ができるようになっている。乳幼児のころからノーマライゼーションの環境を体験することは、子どもの情操に大きな影響を与えることになっていることがうかがえる。</p> <p>③ 保育士が日頃より子どもたちに伝えている「みんな違ってみんないい」を体験する機会として、手話による読みきかせ集会などにも参加を促している。子どもたちは、言葉通りさまざまな人がいることをこの集会で知り、違うことを大切にすることを考える機会としている。また、人を傷つけるような言葉を使っている場面に遭遇した保育士が、言葉には言っていない言葉といけない言葉があることを伝えたことも報告されている。自分が言った言葉について再考をする</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		機会を設け、言葉の大切さを伝えることにも取り組んでいる。保育士が自らの役割と責任に基づいて行動している一端と見受けられる。
子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか	<p>① 当番活動やお手伝いを通して、ほめられる事や認められる機会を持っている。「ありがとう」の言葉をかけられたり言ったりすることで感謝の気持ちを知り、人の役に立つ喜びを味わう事で成し遂げた達成感や満足感へと繋ぎ、自信を持てるようにしている。</p> <p>② 身近にいる社会の色々な人とのふれ合いを通して人と関われる喜びや楽しさを体験している。また、様々な活動の中に人との交流を持つことで社会性を身に付けていけるようにしている。</p> <p>③ なぎさ荘や他の施設、近隣の公園や子ども館に出かけ、地域の方と挨拶やふれ合いを交わし、関わる楽しさや生活経験を広げられるようにしている。年長児は、近隣小学校との交流の機会を持っている。</p>	<p>① 年長児は2～3歳児の布団のシーツ外しを手伝ったり、雑巾がけを行ったりなど、お手伝いを喜んでやる姿を年下のクラスに見てもらう機会を設けている。お手伝いをする事で「ありがとう」と言われる経験を通じて、自ら進んでやることにつながっていることがうかがえる。</p> <p>② 園では保健師をはじめ、お話しの会のボランティア、防犯教室の警察官、職場体験の中学生や高校生、にこにこの日の参加者など、保育士以外と関われる機会を豊富に設けている。それらの人々との関わりは社会体験の一翼を担っている。</p> <p>③ 「なぎさ荘」への定期的な訪問、辻堂小学校のフェスティバルへの参加など、近隣の施設に赴いて地域の方々と知り合い交流する機会も設けている。また、辻堂小学校との交流は、卒園後に同小学校に就学する子どもも多いことから、就学に向けたイメージ作りの機会として捉えている。</p>
生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか	<p>① 歌、手遊びで音の心地よさを伝えたり日々の保育の中で様々な絵本を読み想像する楽しさを味わえるようにし言葉への興味を広げている。</p> <p>② 一人一人の言葉のやりとりを大切に、イメージの共有ができるごっこ遊びを取り入れ玩具や環境を整えている。楽しく展開できるよう、保育士と子ども、子ども同士での遊びからやりとりを楽しみ、豊かに広がりのある言葉の世界が作られるようにしている。</p> <p>③ 生活に必要な言葉や挨拶など日常のやりとりの中でその場にあった言葉かけをし、身につくようにしている。言葉のやりとりの中で言われて嬉しいこと悲しいこと(ポカポカ言葉、チクチク言葉)など子どもたちと振り返っている。</p>	<p>① 日々の保育の中で音の心地よさを伝え、模倣を楽しんだり、言葉の響きを楽しむ機会を作ったりすることを大切にしている。保育士とのやりとりの中から言葉の持つ音に関心を示す機会を作り、子どもの指差しを言葉にすることで発語を促す機会になるとしている。幼児クラスになると、しりとり、かるた、伝言ゲームなどの言葉遊びに発展させ、言葉に興味を持ち、関心を深めてもらえるようにしている。</p> <p>園では絵本の入替も兼ねて、「絵本屋さん」と称する活動が行われている。幼児クラスにある絵本を廊下に全て並べ、子どもたちが好きな本を選びクラスに持ち帰り、次の絵本屋さんまでそのクラスの本として保管されるという取り組みである。自分が選んだ本だということ、クラスの中でもその本に対する子どもの思いは特別のものになり、同時に友だちが選んだ本に対する思いやりも確認されているとのことである。今年度は手話による読みきかせの集会を経験し、手話の歌にも興味を持てるように取り組んでいる。</p> <p>② 子どもから繰り返しの言葉や絵本の言葉などが聞かれるようになるのは、日々絵本を読んだり、語りかけることによって育まれることを認識しており、それらの機会を大切にしている。さらに、「ごっこ遊び」を積み重ねることでイメージを広げることができるようになることを踏まえ、</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		<p>「ままごと遊び」を重視して積極的に取り入れることにしている。</p> <p>③ 登園時、降園時には握手をして挨拶を交わすことにしており、話す時には人の目を見て話すという基本的な習慣が自然に習得できるような環境作りに取り組んでいる。また、笑顔で挨拶できることがコミュニケーションの始まりだとして、挨拶する際には職員から笑顔を絶やさないように配慮している。</p> <p>幼児クラスの当番活動では、クラスの友だちの前で自ら発表したり、友だちの発表を聞いたりする双方の機会を経験できるようにしている。子ども一人ひとりが自らの役割や立場(発表する側と聞く側)を体験することで、自分の経験を自分の行動にあてはめて考える機会としている。</p> <p>④ 「ぽかぽかことば」「ちくちくことば」など、言葉について考える掲示物を設け、言葉には相手を傷つけてしまう言葉があることに気付いてもらえるようにしている。人を傷つけるような言葉を使っている時には、「そんな言葉が使われたらどう思うかな?」と否定するのではなく、子ども自身に言葉の使用に意識が向くような言葉がけに努めている。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 安心できる人的環境を整えた上で一人一人の言葉に耳を傾けたり、聞こうとする気持ちを育めるようにしている。又、相手の気持ちを考えて言葉のやりとりができるように援助している</p> <p>保育士自身が心身にゆとりをもって保育にあたり、落ち着いた環境の中で子どもとの信頼関係を築き、保育士の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を引き出せるよう育み、子どもの話したい気持ちを受けとめている。</p> <p>保育士や友達同士で話をする時間を大切にし、聞こうとする態度を育てている。</p> <p>② 絵本が持つ意味を理解した上で子どもにあった絵本を選び、思いを込めて読み聞かせるようにしている。</p> <p>また、日頃の実体験等を通して感性を養い、言葉のイメージを膨らませている。</p> <p>③ 子どもの話をよく聞き、気持ちを汲み取り共感したり、代弁したり考えや経験を伝え合う機会を大切にしている</p>	<p>① 言葉にならない気持ちをくみ取り、保育士が代弁することを大切にしており、日頃より1対1で目を見て話しかける「応答的な関わり」に取り組んでいる。0歳児では言葉にならない話しかけに対応することで発語につなげたり、1～2歳児では自分の気持ちを言葉にできるように言葉のやりとりに注力したりしている。「貸して」「入れて」などの自分の思いを言葉にすることで、伝えたいという気持ちにつながるとしている。それらの経験を多く積めるようにすることで自分の気持ちを伝えようとする姿勢になるとしている。幼児組では自分の気持ちを伝え、相手の気持ちに気付かせる経験をさせている。さらに、子ども同士のやりとりに配慮しており、第三者の友だちが入った場合は、お互いの気持ちを伝えて解決を図ることにしている。</p> <p>② 絵本は年齢や季節、子どもたちの興味に合わせて整えることにしており、幼児クラスになると、園庭で見つけた虫を図鑑で探し、見比べてみる姿があることなども報告されている。また、お話し会や素話を聞く機会を定期的に設けたり、読み聞かせが好きな子どもが自由に参加できる「紙芝居屋さん」を午睡後に20～30分の時間で行ったりしている。参加している子どもの後ろ姿は、話に集中してイメージを広げ楽しんでいる様子が伝わるものであった。さらに、実体験として、食育の一環として育てている野菜などがあり、五感を通して言葉を獲得できる良い機会とし</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		<p>ている。</p> <p>③ 自分の思いや経験を話すことを大切にしており、休日の翌日に「昨日は何をして過ごしたか」、「今日は何が楽しかったか」など、自分の経験を友だちの前で話す機会を設けている。また、子どもたちだけで話し合いながら解決したり、自分で考えて言葉にしたりする経験は集団の中だからこそ出来るとしている。年長児は就学に向けて保護者へ伝えてほしいことを自分で伝えることに取り組んでいる。</p> <p>保育士は常に(1)挨拶を大切にする、(2)相手の気持ちを考えて言葉が使えるように見守りながら必要な時には気付きを与える、(3)乳児に対しては伝えたいという気持ちに応じてあげる、などに努めている。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 乳児クラスでは少人数グループ保育を実施し、担当保育士とのやりとりを日々重ねて信頼関係を築き、まだ言葉や形にならない「表現」や気持ちを受けとめ、思いが通じる経験を通して、表現する喜びを味わわせている。</p> <p>② 保育士も表現者となり、一緒に歌ったり身体を動かしたりすることで、身体を使って表現することの楽しさを伝えたり、共感している。友達同士や異年齢で関わり合うことで表現力が身についたり、発表する機会を設ける事で自信や意欲を育んでいる。</p> <p>③ 発達に合わせたいろいろな素材・用具を用意し製作意欲を高め、季節の素材にふれるなど経験を豊かにし、表現することを楽しんでいる。</p>	<p>① 子どもが自分自身の気持ちを表現する方法として園ではリズム遊びに力を入れている。信頼できる保育士との良好な関係性の中で自分の気持ちを適切に表現できるように支援している。保育士と向かい合って行う手遊びや歌、楽器、リズム遊びなどに加え、友だちや保育士と個別に楽しむ遊びや集団遊び(ごっこ遊び)などを楽しむ機会を設けている。</p> <p>② 歌を歌ったりふれあい遊びをしたりして、心動かされる環境の中で感動を人に伝え受けとめてもらえる機会作りに取り組んでいる。子ども自身が散歩や日々の活動の中で感じたことを、表現できる場を設けている。</p> <p>③ 発達に見合った玩具・道具・素材などを用意して、必要なものを表現したい時に自由に使えるよう置き場所や量に配慮した保育に取り組んでいる。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 子どもが好きな遊びを選択できるように、年齢・興味・関心に合わせた遊びのコーナーを作り、じっくりと遊べるように空間を分ける等工夫している。更に、子どものイメージが膨らむように必要な玩具・用具を用意している。</p> <p>② 運動会・なかよし会・お店やさんごっこ等の行事は一人一人の考えを子ども同士が認め合う事ができるようにし、その中でイメージを膨らませ必要なものの製作も行い、期待感・達成感が感じられるようにしている。</p> <p>③ 絵本や紙芝居を読みきかせる中で、言葉・歌・動作を模倣したり、自ら考え、ごっこ遊びや劇あそびを友だちと楽しめるようにしている。</p>	<p>① 子ども自身の自由な発想やイメージで作った作品を保育室など園舎内の壁面に掲示し、完成を振り返ったり保護者に関覧できるようにしている。また、年齢に応じて大きささまざまな作品作りに取り組んでおり、それぞれ表情豊かで個性的な作品が出来上がっている様子がうかがえた。壁面に飾ることで、製作意欲や自信につながっているとのことであった。</p> <p>② 年度初めの職員会議で年間行事計画や役割分担を決定し、季節ごとのさまざまな行事を取り入れ子どもが楽しめるように工夫している。運動会・なかよし会・お店やさんごっこなどを通じて友だちとイメージを共有しながら、年少児、年長児も一緒にみんなで協力するなど、楽しい行事が行われている。</p> <p>③ 子どもが自由に描いたり、作ったり出来るよう、</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		<p>乳児は口に入れても心配のない粘土や安全面に配慮し、大きめなブロック、幼児になると毛糸や廃材など教材の種類を増やしている。このように年齢に応じて様々な素材に触れることができるようにしている。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 保育の中で絵本や紙芝居を読み聞かせる時間を多く持つようにしている。図書コーナーを設け、季節に合った絵本を入れ替えて、家庭に貸し出している。ボランティアによる読み聞かせ(年長児のみ)をしていて、子ども達も心待ちしている。今年度は、手話による読み聞かせも行った。</p> <p>② 戸外遊びや散歩に行く機会を多く持ち、散歩などは、公園で思い切り走ったり、固定遊具などを利用し、全身運動を促している。またリズム遊びは、各年齢ごとに合わせて行っている。なぎさ荘(ホール)にも行き、友達や保育士とダイナミックに身体を動かす楽しさを体験出来るようにしている。</p> <p>③ 防災・防犯などは全クラスで実施し、訓練を繰り返す中で保育士の所に集まる事、身を守る事、避難する事などが出来るようになって来ている。また幼児クラスは様々な行事を実施し、体験する事により、身近な生活に関する興味を深めている</p>	<p>① 絵本や紙芝居などの読み聞かせの時間は子どもと同じイメージを共有できる機会として、その中の言葉や絵から受けた子どもからの発語を大切にしている。また絵本などに集中することで、自分のイメージを広げることができるようになり、そのイメージを遊びの中で再現しようとする姿も確認されている。素話や手話による読み聞かせなど、多様な伝える手段を経験させる機会を図っている。</p> <p>② 今年度は散歩を「歩育」と称し、いろいろな場所への散歩を行っている。自然に恵まれた地域に園があり、すぐ近くに安心して遊べる公園や広場があるため子どもたちはいつでも自然に触れることのできる環境にある。また園庭も前庭と奥庭、畑など自然に恵まれた広い環境の中で、子どもたちはのびのびと遊んでいる。</p> <p>0歳児からリズム遊びを行っており、続けることで子どもたちは自分の身体を上手く使えるようになり、5歳児になるときれいなポーズがとれるようになってきている。年齢に合わせた発達を促すためにも、自分の身体を自分で動かせるようになることは大切だとして、音楽に合わせて身体を動かしたり、友だちの姿勢を見て真似をするという経験は支援したいとしている。また巧技台を使って、「くぐる」、「身をかがめる」という通常はあまり使わない動作を取り入れることで、自分の身体のコントロールができる子どもへの環境提供をしている。</p> <p>③ 「防犯教室」「防災訓練」「交通安全教室」など、子どもたちに自分の身を守ることの大切さを知ってもらう機会を設けている。また、海や川に近い地理的な環境を鑑み、近くにある4階建てのマンションに津波の際には避難できる許可をもらっているということで、そのマンションに全クラスで避難する訓練を行うなどの高い危機意識をもった取り組みを行っている。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 各年齢に適した環境を整え、子どもの創作意欲や自然事象への興味関心を高める働きかけを心がけている。また夏期には、水遊びやプール遊びなどを積極的にを行い、水に触れる機会を多く持ち、感触を楽しませている。異年齢と交流する機会を多く持つ事で、自然と他クラスとの関わりを子ども達が求め、一緒に遊ぶ姿が見られる。</p> <p>② 自然事象に関しては、子ども達の気付きを大切にし、疑問や不思議に関しては、一緒に図鑑で調べたり、子ども達と一緒に考える時間を大切にしている。</p> <p>③ 各クラスで育てたい花や野菜を決め、用務員と一緒に苗植えなどを行い育てている。子ども達と水やりをしたり、観察して絵を描いたり、各クラスでいろいろな形で保育に取り入れている。また調理室と相談の上、給食として献立に入れて、食育に繋げている。子ども達も生長を楽しみにしている姿が見られている。クッキング保育なども行っている。</p>	<p>① 遊びたいおもちゃを自分で取り出せることが必要だとして、おもちゃは子どもが取りだしやすいように配置している。またコーナー遊びは集中して遊び込めるように、作品を作っている途中で時間になってしまった時なども、その作品を残して置いておき、改めて後日作ることも出来るように細やかな配慮に努めている。</p> <p>広い園庭で夏には「ウォーターアドベンチャー！」と称して、幼児組は泥んこ遊びをする日を設けている。滑り台から水を流したり、土に水を含ませ泥んこ遊びをしたりなど、泥まみれになって生き生きと遊ぶ姿の写真を確認することができた。子どもだからこそできる遊びを提供しようとする保育士の意気込みが感じられる楽しい企画になっていることがうかがえる。是非とも年に1度で終わらせず、複数回のチャレンジを期待したい。</p> <p>② 当園は広い園庭、海、川など近隣の自然など環境に恵まれており自然に触れる機会が多い。周りに高い建物などもないため園庭や園舎から見える空も大きく、子どもがそれに気付き自然への思いを語る言葉を聞くこともある。季節により、虫や花、木の実などを拾い遊びの中で利用したり、作品に使用するなど常に自然の事象を身近に感じることが出来る保育を行っている。</p> <p>③ 園には畑があり、職員と共に子どもと一緒に育て食育へとつなげている。各クラスで植えた苗を育てるために、各クラスで水やりを行っているが、1歳児クラスでも水やりを自分から行えるようにしている。年長児の姿を真似ての行為であったとしても、異年齢児と一緒に過ごす保育園での刺激の多様さ故の子ども姿は、環境からの望ましい姿を明確にしている。</p> <p>畑で育てた野菜は子どもの手で収穫され、調理後に給食などで食べることで食育活動としている。自分たちが育てた野菜は苦手な野菜でも喜んで食べる姿が確認されており、野菜などの生育を見守る活動が食育へと大きく貢献していることが確認できる。</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 子どもたちが体を十分に動かして遊ぶことにより、空腹感を感じ、「お腹が空くリズム」を作れるように毎日の活動を工夫している。その上で食への関心を深めるため、常に調理員と連絡を取り合ったり、食事の時間が「楽しみ」と感じられるような環境・雰囲気づくりを心がけている。</p> <p>② 各クラス、野菜を育てたりクッキング保育や皮むきのお手伝いなどを通し、食材に触れ、興味や関心が持てるようにしている。</p>	<p>① 夏野菜を育て収穫したり、調理室と連携して2～5歳児までは野菜の葉をむいたり、トウモロコシの皮むきなど、食育に力を入れている。クッキング保育ではピザやパン、カレー、豚汁に加え、クッキー作りにも取り組んでいる。</p> <p>② 楽しく食べる雰囲気大切に、時には異年齢で会食など楽しい食事会を行っている。離乳食では、一人ひとりに合わせた食事の形態にしている。さらに、保育士も一緒に食べながら子どもたちのお手本になって自然にマナーが身につくようにしている。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	③ 個々の発達に合わせ、オムツ交換の心地良さを経験させたり、家庭と連絡を取り合いながら排泄のタイミングを把握し、子どもの意志を尊重しながらトイレに誘い自立へと繋げている。	
身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか	<p>① ひとりひとりの発達に合わせながら、子どもの「やってみよう」「やってみよう」と思うタイミングを逃さず、無理なくそれぞれに必要な援助をしている。 家庭へも保育園での様子を口頭や掲示板上で伝え、子どもの成長を共に喜び、家庭と保育園で同じように取り組んでいる。</p> <p>② 健康についてイメージしやすいように絵本や紙芝居を見せたり、集会(幼児)を行い、健康に繋がる大切な理由をわかりやすく伝えている 具体的な掲示をすることで取り組みやすく、身近に学べる環境をつくり意欲へと繋がっている</p> <p>③ 毎月の防災訓練では身を守る方法を習慣づけている。</p> <p>④ 保育士が一緒に食事をすることで、食事の楽しさ・マナーを知らせたり、感謝の気持ちが育めるような働きかけをしている。 休息については安心して身体を休められるよう、環境を整え、眠りにつけるようにしている。</p>	<p>① 排泄、食事のマナー、口腔ケアなど身の回りのことが、年齢や発達に合わせ生活の中で無理なく身につくように一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。年齢や発達に合わせ、和やかな雰囲気の中で生活習慣や身の回りのことができるように繰り返し伝えたり、経験できるようにしている。本人が意欲的に取り組めるように時には励ましたり、上手にできた時には誉めたりして意欲が継続していくように見守ることを大切にしている。</p> <p>② 子どもの家庭環境は、保護者の事情によってさまざまであることを踏まえ、良く話し合いをして家庭と密に連絡を取り合っ子どもにとって良い生活リズムが取れるようにしている。子どもたちが自ら自分の身体や健康、安全に関心を持って自分の健康は自分で守れることが大切なことを健康集会で伝えたり、保護者にも掲示物などで連絡するなど、タイムリーな情報提供に取り組んでいる。</p> <p>③ 身の回りのことを取り組みやすいような環境整備に取り組んでおり、排泄のトレーニングを始めたばかりの子どもには楽しくトイレに行かれるような雰囲気づくりに努めている。日々の保育の中では、年齢や発達に応じた散歩や遊びで、身体を十分動かし、外気にふれて、空腹感を味わえるようにしている。また、安定した環境と信頼関係の中で、活動と休息のバランスの大切さを実感できるようにしている。</p>

### 大項目3 保育園の特徴

評価項目ごとに事業所の取り組みを記載して下さい

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください	<p>① 発達に合わせた運動遊びを展開したり、広い園庭を有効に活用することや、定期的なリズムあそび・園外保育を計画的に実施し、体力作りに努めている。</p> <p>② 職員間で連携を取り合い異年齢交流を計画的に進めたり、日々のふれあいの中で年下の子への思いやりや年上の</p>	① ・ リズム遊びの年間計画を立て、0～5歳児が体系化されたプログラムの中で楽しめるようにしている。3歳児は5歳児のリズム遊びを見て真似したり、上手に出来る子が教えてあげたりなど、それぞれ年齢に合わせて行い良い刺激になっている様子が見受けられる。また、日々の保育の中で「歩育」として歩く機会

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	<p>子へのあこがれ、譲りあったり、我慢する力を養っている</p> <p>また、中学生や高校生、世代間交流で地域の高齢者の方々とふれあい優しさを感じたり、人を思いやる気持ちを育てている</p>	<p>を作ることに取り組んでおり、幼児組クラスでは片道30分または往復4～5キロ位は歩けるようになるように散歩の年間目標を設けている。散歩した日にはクラスの前に掲示しているポスターに行った公園を記し、保護者にも子どもたちがどれくらい歩けるようになったかを伝え、3月には目標を達成できるように取り組んでいる。さらに、災害などを想定して日頃からの体力作りに注力している様子もうかがえる。</p> <p>② ・「ウォーターアドベンチャー」として年に1回園庭で水と泥んこで遊ぶ日を設けたり、飛び箱、鉄棒、ポール、縄跳び、巧技台を使う機会を多く設けたりなど、自分の身体をダイナミックに使う取り組みにも力を入れている。</p> <p>③ 2歳児と5歳児は保育室が近く、日常の中で異年齢交流が図れるようになっている。トイレの見守りや午睡後の手伝いを5歳児が2歳児に行っている様子も見受けられた。それらの関わりは子どもの育ち合いの大切な機会として位置付けている。また、計画的な異年齢児交流としては、「お店屋さんごっこ」などの行事においては、年長児が年少児を案内したり、譲ったりする場を積極的に設けることに取り組んでいる。</p> <p>地域の中学生の体験保育や合唱、ハンドベル、高校生の吹奏楽部によるクリスマス演奏会、高齢者や民生委員との紙飛行機づくりや伝言ゲームをするなど世代間交流など、さまざまな地域の人々と関われる機会を豊富に設けている。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 長時間保育は朝夕の利用状況を把握し、人数に合わせた勤務体制を作り、子どもの状況を把握した上で職員が保育にあたるようにしている。また降園が18時を過ぎる子どもには夕食の妨げにならないような補食と水分補給を提供している。</p> <p>② 特別支援児保育については子どもの現状を把握し状況に応じて加配をしている。また、研修会に参加したり援助が必要な子には職員会議でケース検討をし職員全体で子どもを理解し援助している。支援児には個別に指導計画も立てている。</p> <p>③ 乳児保育は出来るだけ少人数グループ・同じ職員が関わる事で安心感や早期に信頼関係がつきやすくしている。自分を出し、受け止めてもらう環境の中で意欲的に遊び援助されながら生活習慣の自立が出来るようにしている。</p>	<p>① 長時間保育では、朝と夕方の時間に乳児クラスと幼児クラスの保育士をそれぞれ配置することで、子どもが安心して過ごせるようにしている。また、毎日同じ短時間保育士が担当しているため、子どもたちは同じ人的環境で過ごせるように配慮されている。さらに、早番、遅番時の伝達事項は、連絡ノートチェック表を利用し保護者への連絡事項にもれがないように申し送りをしている。また、子どもの健康管理は前日の様子についてもチェックし、翌日の登園時には体調などを確認することを心がけている。</p> <p>② 特別支援児については、個別の支援計画を立て月案にも個別の配慮の記載をするなど細やかな対応を心がけており、これらについては職員会議で全職員に周知されている。また、専門機関との情報交換を行い公の施設との連携を図るなどの援助を行っている。</p> <p>③ 乳児組は少人数グループ保育を行っている。安心して保育園での生活を送れることを「ねら</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		<p>い」にして、食事やオムツ交換、午睡など生活に密着した行為を同じ保育士が担当するようにしている。毎日同じ保育士が担当することによって、小さな変化や体調なども気付くことができる環境としている。また生活習慣を身につける場合も、同じ保育士からの言葉かけを聞くことで安心して過ごすことができるとしている。</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>① アレルギー食の対応については「アレルギー対応マニュアル」に基づき対応している除去を行う時は医師の指示のもと申請書を提出してもらい、保護者・園長・調理員・担任で話し合い、除去食を実施している。除去食を提供するにあたっては職員全員で確認し、誤食の無いように努めている。</p> <p>② 離乳食は入園時に家庭での状況(形態や量)を把握し、実際に試食の場も持っている。保護者と密に連絡を取り合い子どもの発達に合わせて無理なくすすめている。</p> <p>③ 病後の登園時には保護者に症状を聞き取り、体調の変化等観察をしていく。保護者には入園時に感染症等の登園基準を知らせ理解を求めている。子ども達の体調に異常が見られた場合は保護者に知らせたり、必要な時は園医、保健師と連携を取り対応している。</p>	<p>① アレルギー児については、医師の指示書と申請書の提出により、園長、調理、担任保育士、保護者の4者による面談を行いアレルギー食の提供を行っている。毎月、翌月の献立表のチェックを4者がそれぞれ行い、細心の注意を払いチェックを行っている。調理室では通常の食材との混在を防ぐことも含めて切り方や形を変えるなどの工夫を加え、トレーによって配膳するなどの注意を払っている。また、献立表を3部コピーしてチェックを行っているとのことであるが、4者が確認したことを示すチェック欄へ記名の付加を望みたい。</p> <p>② 離乳食は入園当初に一口検食を行い、保育園での離乳食の形や味などを保護者に知ってもらう機会を設けている。また「離乳食の食材一覧表」を配布し、各食材を必ず1度家で食べてもらうことを徹底しており、離乳食は個別対応に近い形で提供をする形になっている。そのため離乳食の進め方は、保護者と歩調を合わせて足並みをそろえて行うことに注力している。</p> <p>③ 全園児には「幼児健康カード」を提出してもらい、日常生活の中で活用している。保護者とは連絡を密にとりながら、保護者と共に子どもと接していくことに取り組んでおり、感染症などが発生した場合にも、掲示板などを使用して、必要な情報提供を心掛けている。</p>
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 「藤沢市食育計画」に基づき、「食を楽しむ子ども」を食育目標とし年間計画を立案し、各年齢毎に取り組んでいる。幼児では更に活動内容を具体化した「食育年間計画」を取り入れて集会を設定している。</p> <p>② クッキング保育では「カレー、手作りパン、クッキー作り」等調理員や栄養士のデモンストレーションも取り入れ実践している。調理員は「お手伝いカレンダー」を計画し各クラスに働きかけ、各年齢が手伝いや食材に触れることを楽しめるようにしている。また、調理員と一緒に食べる機会を持つ等食に携わる人への関心や感謝の心を育てている。</p> <p>③ 地域の業者の方(鮮魚店)の協力を得て、「魚の解体ショー」を行い食材への</p>	<p>① 3～5歳児を中心に年齢ごとに食育計画を立案し、クッキング保育や食育体験などを実施している。給食室の前には四季を通じて旬の食材の紹介を掲示し、調理員と連携しながら行い、子どもたちの食生活の大切さを伝え、食べる意欲や食への関心を育てている。また、夏にはトマトやナスなど年齢ごとに多くの野菜を栽培している。</p> <p>② 調理員は「お手伝いカレンダー」を計画し、各クラスに働きかけ、各年齢が手伝いや食材に触れることを楽しめるようにしている。また、食材に触れる機会として地域の鮮魚店の協力を得て、「魚の解体ショー」を行い関心をさらに深められるようにしている。</p> <p>③ 食生活の大切さを保護者にも理解してもらえようように季節の食材・メニュー、レシピなどを</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	<p>関心をさらに深めている。</p> <p>④ 保護者の方には毎日の給食サンプルの展示、レシピの紹介の他、食育に関する掲示を行っている。又、新入園児の保護者には試食の場を持ち、0歳児には調理員より離乳食について説明を行ったり、3歳児保護者対象の試食会も行っている。</p>	<p>紹介している。毎日の給食のサンプルの展示もしている。毎月1回の保育課栄養士の巡回指導に合わせて園の摂食状況をまとめている。給食の試食は入園時のほか、3歳児の保護者を対象に行っている。</p>
<p>家庭とのコミュニケーションに関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 玄関に園目標、各クラス月の保育のねらい、月の行事予定を掲示、各クラスの前には月の保育内容を掲示し保育の発信を行っている。</p> <p>② 毎日の保育内容や子どもの様子についてはホワイトボードや連絡帳、おたより帳を活用したり、送迎時は口頭でも様子を伝え合いコミュニケーションを取るよう努めている。(また必要に応じて、手話や筆談でコミュニケーションを取りながら連絡等漏れのないよう気をつけている)</p> <p>③ 懇談会、公開保育、個人面談を実施し、保育園の方針やクラス運営、保育園での様子を伝え、保護者の方の意見や要望、子育てに関する相談に対応し信頼関係を築くよう努めている。</p> <p>④ 園独自の「はまっこだより」を発行し、クラスの様子や保育に関する情報・行事をお知らせしている。</p>	<p>① 保護者からの要望は保護者懇談会(年2回)個人面談・公開保育、連絡帳などを通じ、把握して連携を深めている。また園としての保育理念や方針、目標、各クラスの取り組みなどを知らせ理解を求めている。また、連絡表(0～2歳)でその子どもの日々の様子を伝え、毎日の保育の様子はクラスごとのボード(写真も含む)で知らせている。</p> <p>② 園だより・献立メニューを発行しており、月初めに”今月の保育”を掲示しその月の各クラスの保育の内容を知らせている。また、朝夕の担任以外の保育士とも互いに連携をとり送迎の際にしっかりと必要なことが伝達できるように努めている。朝礼では保育士としての心構えを再確認し、保護者や子どもの状況を共有している。</p>
<p>地域の子育て支援に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 地域交流の取り組みとして、体験保育(はまっこの日)や園庭解放を実施し、保育園の子ども達と交流をもちながら、保育の様子を知って頂いたり、参加者の子育て相談にも対応している。</p> <p>② 情報の発信として、定期的にホームページで保育園生活の紹介を行い、すこやかメール(年2回)を発行し、地域交流の日程や内容等情報を伝えている。保育園の他、市役所保育課や各市民センターにも置き広く伝えている。</p> <p>③ 保育園見学については随時受け入れている。園生活の説明や遊びの様子等の見学を通して質問等に対応する等、藤沢市の子育てに関する取り組みについても紹介している。</p> <p>④ 他機関との連携として、公民館事業「親子で遊ぼう」の講師を担当したり、公民館祭りにも参加し保育園の紹介を行っている。</p> <p>地域子どもの家(ひよっこり鶴南島)では子育てふれあいコーナー「あいあい」を担当し、地域の方の子育て相談に対応している。</p> <p>また、なぎさ荘(老人福祉センター)祭りや敬老会等、地域の保育園として参加</p>	<p>① 地域に根ざした保育園として、地域の親子が遊びに来られるように体験保育や園庭開放、育児相談などの機会を設け地域交流を行っている。子育てふれあいコーナー事業に参加したり、育児相談に応じている。公民館まつりには保育園で協力して参加し、地域の方々に保育園の情報を提供している。</p> <p>② 保育園見学や入園相談などは随時実施しており、保育実習生、看護学生、中高生の保育体験を受け入れている。広報としては、掲示板、携帯子育てメール、ホームページで発信している他、子育て情報を載せたパンフレット(すこやかメール)を公共施設にて配布している。</p> <p>③ ひよっこり鶴南島(地域子どもの家)では、子育てふれあいコーナー「あいあい」を担当し、地域の方の子育て相談に対応している。また、なぎさ荘(老人福祉センター)祭りや敬老会に参加し交流を図り、地域に開かれた園運営に取り組んでいる。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	し、理解を深めたり、交流を図っている。	